

人権だより (第1号)

平成30年5月25日

人権教育委員会

5月11日(金)、人権教育LHRで(また、後援会総会行事の一環として)、昼間部生徒・保護者・教職員を対象に講演会を行いました。岡山県立岡山盲学校元教頭であり現在は社会福祉法人岡山ライトハウス理事長の竹内昌彦先生を講師としてお迎えしました。

竹内先生は幼少期の高熱でほとんどの視力を失い、その後、網膜剥離により全盲となりながらも、パラリンピック出場、盲学校勤務、発展途上国での視覚障がい者支援などさまざまな場所で活躍されています。

講演では、竹内先生のご経験から「いじめなどの困難を乗り越える勇気」「命の大切さ」「障がい者理解」などさまざまな話をしてくださいました。1時間半にわたるご講演が大変短く感じてしまうほど、ユーモラスかつ感動的なお話で、生徒も保護者も引き込まれました。

ここで、送迎を担当したK(Toshiya)先生と、司会を担当したT(Yuya)先生だけが気づいた、竹内先生の「すごい所」をいくつか紹介します。

Toshiya's eyes 👁️

・私が先生に話しかけた時、私の方に顔や体を向けて話を聞いて下さったのが印象的でした。目が見えてもそれが



できない人もいますよね。考えさせられました。

・階段を上る時より、降りる時の方がはるかにスムーズに進めました。なぜこんなにスムーズに降りられるか、怖くないかと質問すると、「上る時に段数を数えてましたから。」とのこと。すごい!

・「みんな最後まで集中して聴いてくれてましたね。」とおっしゃったので、どうしてそれが分かるのか聞くと、「最後の方で冗談を言っても笑ってくれたから。聴いてない人は冗談を言ったことに気づかないですからね。」とのこと。すごい!

Yuya's eyes 👁️

・演台の形をはじめ、台の上のマイク、ペットボトル、グラスの位置や形状を確認されていました。(さっと触れるというより、手のひらをあてながら念入りに確認されていた。)一度の確認で、物の位置を完璧に把握されているように見えました。

・確認をされながらも、姿勢を崩すことなく、聞いている人の方を向いて講演をされていました。

【裏に続く】

〈感想〉

- 見えなくてつらいことはあったと思うけど、それを乗り越えた竹内先生はすごいと思う。障がいをもっているのは悪いことじゃないし、恥ずかしいとかでもない。目が見えないことを周りの人がどうとらえるかは分からないけど、できることなら私はそういう人たちのことを助けていきたいと、今日竹内先生のお手伝いをして分かりました。(1年生)
- 目が見えないことを「-」にとらえるんじゃなくて、「+」にとらえて、ちょっとしたいい事でもその先の人生への「力」にしていたところがすごいと思いました。(2年生)
- 一番思ったことがあります。それは僕がとても幸せな家庭に生まれたんだなということ。普通に生活ができていることに感謝しています。普通な生活ができているからこそ、人間としてしっかりと筋を通して生きて「やさしい心」をもてます。僕の代わりとなって助けてくれた障がい者の方たちと、これからは接する機会があれば、知らない人でも今度は自分が助けてあげたいです。(3年生)
- これから先、目の見えない人など困っている人がいたら手助けをしたいし、なんらかの機会があれば、生徒会で役立てるようなことをしたいと思った。竹内さんのお話を聴けてすごく良かった。(3年生)
- 先生は話すときの声の力がすごいと思いました。一つ一つの言葉を大切に発していて、それらが耳に、心に浸透してきました。(4年生)



他にも、ここでは紹介しきれないくらいたくさんの良い感想ばかりでした。

先生のお話を聴いて、それぞれ得たものがたくさんあると思います。自分の学校生活にも生かせることがあれば、すぐに生かしましょう。

竹内先生が講演中に紹介されていた書籍が図書室でも借りられるようになりました！



図書室入口付近に置いてあります！！



「見えないから見えたもの」(写真左)

先生の体験がつづられたエッセイ。表紙の絵は先生の左目がまだ見えていた頃の作品です。

「船長の粋な話」(写真右)

全20編のミニエッセイ集です。